

山本麗晃

準職分披露能



令和七年二月九日(日)

十四時開演

於

山本能樂堂

令和七年 二月 九日 (日) 十四時開演

山本麗晃 準職分披露能

於 山本能樂堂

舞囃子

高砂

観世三郎太

守家 由訓

中田 弘美

古田 知英

斎藤 敦

笠田 祐樹

坂口 貴信

井上裕之真

吉井 基晴

大西 礼久

屋島

山本 章弘

守家 由訓

斎藤 敦

古田 知英

上野 雄介

松浦信一郎

上野 朝彦

杉浦 豊彦

大西 礼久

仕舞

〈高砂〉 あらすじ

「高砂」は、世阿弥作で、能を代表する「祝言性」の高い演目として広く親しまれています。

残雪が月光に映える頃、住吉明神が颯爽と現れ、さす手で悪魔を退け、引く手には寿福を抱き、天下泰平、国土安穩を祈って舞います。

爽快で力強さに満ちた気品の高い演目です。

〈屋島〉 あらすじ

平家物語の「屋島の戦い」を典拠とした、世阿弥作の演目です。

義経が雄々しい立ち姿で刀を構え、迫力ある力強い足拍子で、当時の戦の荒々しい様子を語ります。

勝利をおさめた「勝修羅（からしゅら）」の作品として、「田村」「藤（えびら）」とともに、勝修羅三番とよばれ、江戸時代に武士から高い人気を集めました。

弱法師 上野 朝義

西行桜 大槻 文藏

綱之段 山階彌右衛門

山姥 梅若 猶義

森本 哲郎

波多野 晋

浦田 保浩

山本 博通

蝸牛

山伏 野村太一郎
太郎冠者 野村 裕基

主 石田 淡朗

狂言

休憩

能

石橋

山本 麗晃

福王 知登
間 茂山千之丞

柿原 弘和

井上 敬介

飯田 清一

赤井 啓三

山本 章弘

坂口 貴信

笠田 祐樹 吉井 基晴

観世三郎太

上野 朝彦 杉浦 豊彦
井戸 良祐 山階彌右衛門

台後見 上野 雄介 梅若雄一郎 稲本 幹汰 田中 誠士

今村 一夫 浦田 保浩

〈蝸牛〉あらすじ

出羽の羽黒山から出た山伏が、大和の葛城山で修行を終えての帰り道、竹やぶの中でひと寝入りしていると、主人の言いつけで、長寿の薬になるといふ蝸牛（カタツムリ）を探しにきた太郎冠者と出くわします。「竹藪には必ずいるものだ」と教えられて来た太郎冠者は、黒い兜巾（ときん）をいただいた山伏を見つけ、すっかり山伏がカタツムリだと信じ、主人のところへ連れて帰ろうとします。

山伏と浮かれているところに、帰りが遅い太郎冠者を心配した主人が、太郎冠者を見つけて「あれは、カタツムリではなく、山伏で売僧（えせぼうず）だ！」と注意するので……。

〈石橋〉あらすじ

大江定基は、出家して寂照法師となり、中国・インドの仏跡を巡る旅を続け、中国の清涼山（しやうりょうせん）にやってきました。目の前の石の橋を渡ろうとすると、そこにひとりの樵の少年が現れ、橋の向こうは文殊菩薩の浄土であること、この橋は狭く長く、深い谷に掛かり、人の容易に渡れるものではないこと（仏道の修行が困難であることを暗に示唆しています）を教え、渡るのを止めます。そして、橋の向こうが文殊菩薩の浄土であるので、ここで待てばやがて奇瑞が現れるだろうと告げ、姿を消します。

寂照法師が待っていると、待つほどもなく、橋の向こうから文殊の使である獅子が現われ、香り高く咲き誇る牡丹の花の間を勇壮に舞い戯れ、千秋万歳を祝います。

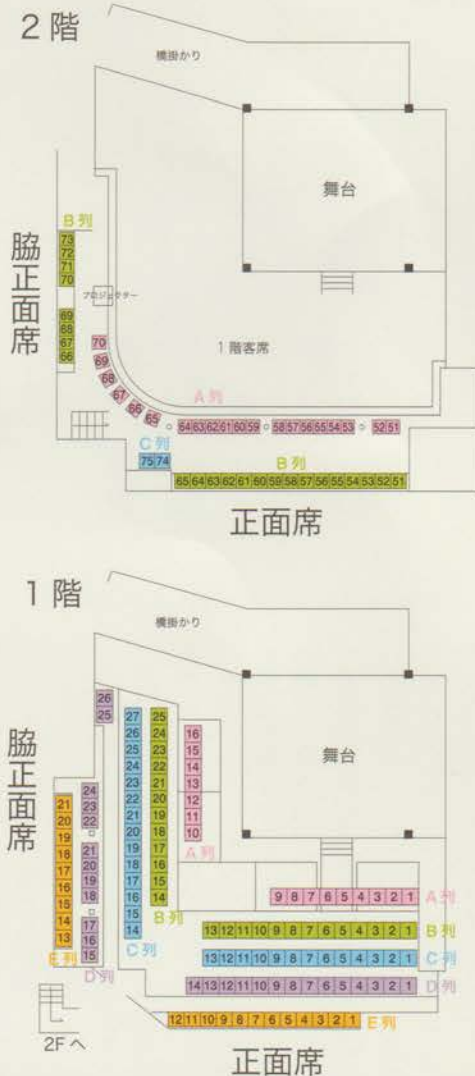
ごあいさつ

皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げます
 観世御宗家様より令和六年六月二十四日に観世流準職分の認定を頂戴いたしました
 能楽師の家に生まれ物心ついた時には祖父より手ほどきを受け
 幼少より能と共に生活をし少年、青年時代を経て準職分の認定を頂戴し
 身の引き締まる思いでございます
 今後は観世流の名に恥じないように精進させて頂く所存でございます
 観世三郎太師、山階彌右衛門師、東京ならびに在京阪神の先輩方のお力添えを
 賜りますことを心より感謝申し上げます
 ご来場賜りますようお願い申し上げます

山本 麗晃

プロフィール

山本 麗晃 (やまもと よしあき)
 平成5年生まれ
 3歳にて初舞台
 山階彌右衛門師 亡祖父 山本真義
 父 山本章弘 に師事
 「千歳」「石橋」「猩々乱」など抜く



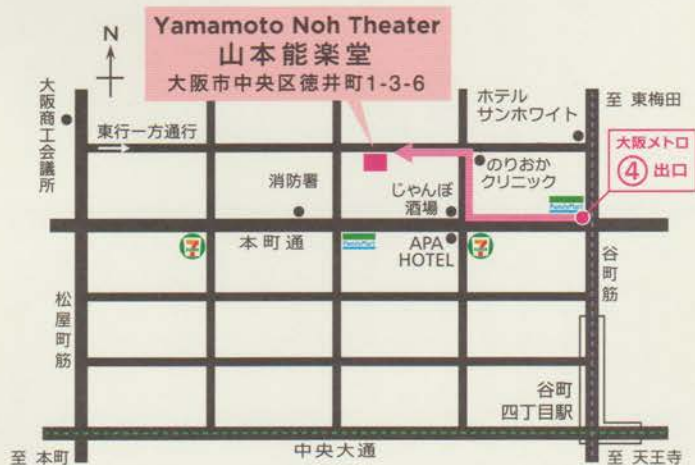
チケットのご予約・お問い合わせ

入場料：10,000円 [全席指定席]

山本能楽堂
 noh-theater.com



TEL 06-6943-9454 (平日 10時～17時、土日祝休み)



大阪メトロ谷町線・中央線「谷町四丁目駅」4番出口より本町通に沿って西へ。1筋目(ジャンボ酒場)手前を右折。1筋目を左折してすぐ左手。徒歩5分。

主催：公益財団法人
 山本能楽堂

山本能楽堂は2027年に
 100周年を迎えます

